

令和元年度 日本橋小学校 自己評価報告書

学校名: 中央区立日本橋小学校 所在地: 中央区日本橋人形町1-1-17
 校長名: 福留正也
 所在地: 中央区日本橋人形町1-1-17
 児童(生徒)数 382名 学級数 13学級 教員数 19名 職員数32名

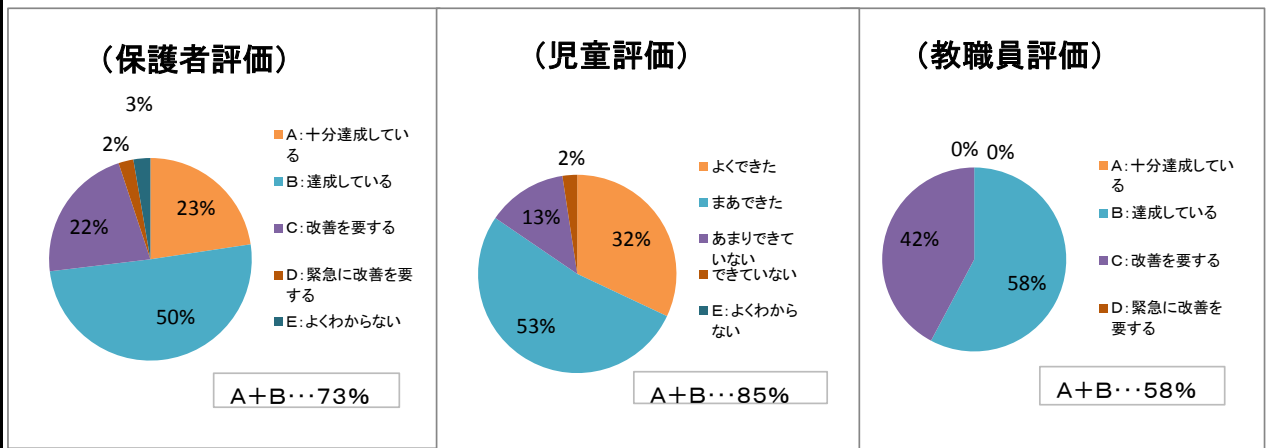
1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 きまりを守り、礼儀正しく思いやりのある子どもを育てる

評価項目 「すすんであいさつをする」「時間を守る」「よさを認め、伝え合う」

評価指標

- ・「相手や場に応じた気持ちのよい挨拶、会釈ができる」など礼儀正しさが身に付いている。
- ・時間を守って自分から行動するなど、社会の一員としてのルールやマナーが守れている。
- ・相手のよさを認め、伝え合い、励まし合うことができています。



特に「きまりを守る」、「礼儀正しく」という点では、まだ十分には指導が行き渡らず、課題を残している。今年度は保護者からの肯定的な評価が7割程度に留まってしまった。児童は昨年度と同程度の評価をしているものの、教職員は保護者の方々以上に、「課題があり改善を要する」と捉えており、2学期以降、日々2学年会を行い、児童の様子情報共有や対応方法検討などを行い、担任だけでなくチームで対応できるようにしている。また、あいさつ運動やチャイム着席の徹底、遅刻者チェック、ありがとうキャンペーンなどの取組を通し、学校全体として意識の向上を図っている。この結果から、教職員と児童、保護者との大きな意識のずれがあり、指導を徹底できていないことが明らかになった。今行っている取組を継続するとともに、きまり、礼儀の大切さを丁寧に指導し続ける。

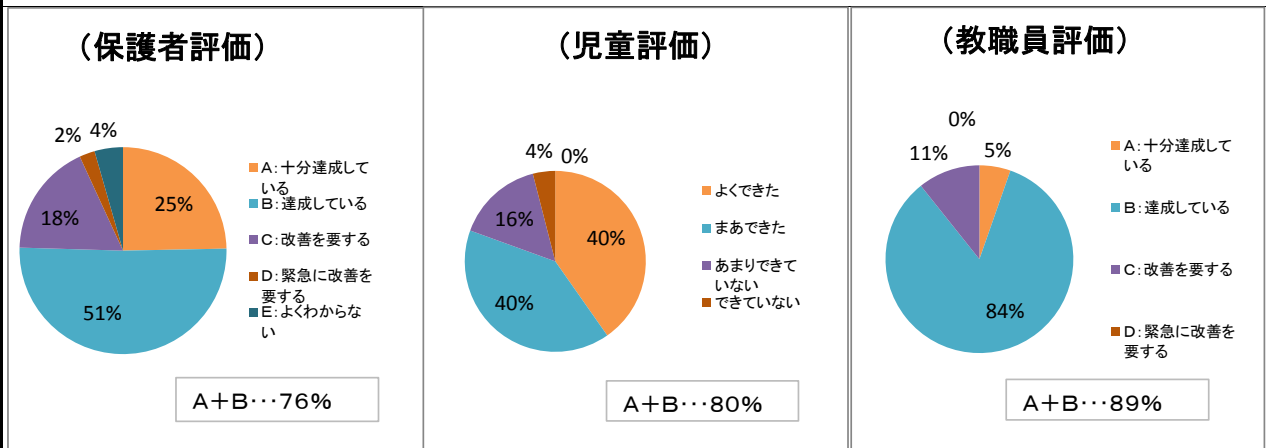
重点目標2 自分の考えをもち、主体的に学び続ける子どもを育てる

評価項目

「自分の考えをもち」「相手の考えを受け入れる」「自分の考えを深め、広げる」

評価指標

- ・自分の考えをもって、学習に取り組んでいる。・相手の考えを受け入れることができています。
- ・話し合いにより、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。
- ・家庭学習【学年×10分】に毎日取り組むなど、学習習慣が身に付いている。



昨年度に引き続き、今年度も校内研究の主題を「自分も人も大切にする児童の育成～自分の思いや考えを伝え合う活動を通して」として、研究に取り組んだ。人権教育の視点も取り入れ、各教科での学び合いを通して自己肯定感を高め、他者理解できる児童の育成を目指し研究を進めた。自己肯定感を高めるといふ視点で1年を通して児童と接し、その子のよさを見とって児童に伝えようという意識で教職員が接してきた。2年間の取組を通して、児童の自己肯定感が全体的に高まったことがアンケート結果から得られた。(平成30年7月の1～5年生「はい」「まあまあそう思う」の合計76%だったのが、令和元年7月の2～6年生は合計83%で7ポイント増え、「はい」は10ポイント増加した。)

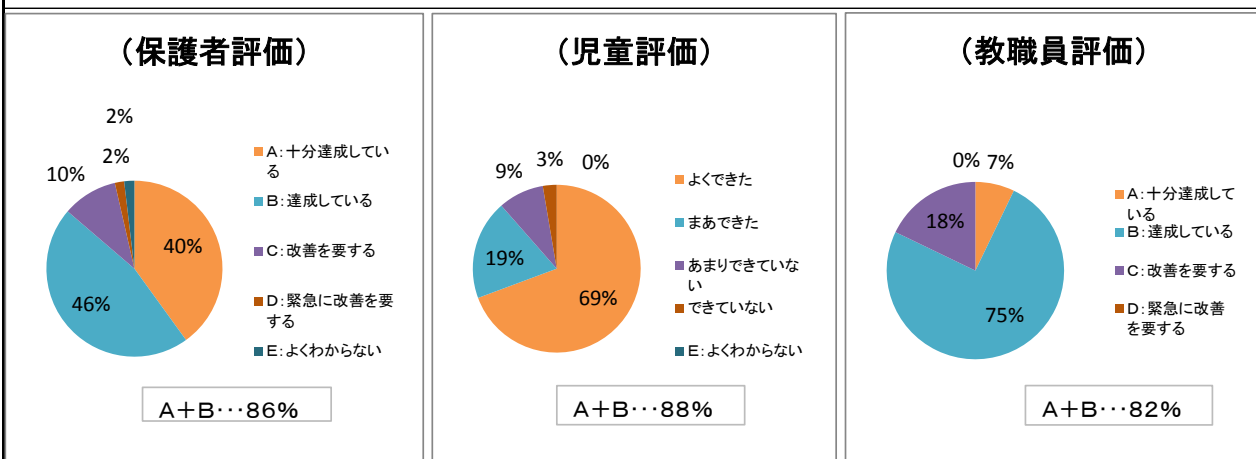
重点目標3 明るく、心身ともに健康な子どもを育てる

評価項目

「すすんで体を動かす」「食の大切さに気付く」「食に感謝する心をもつ」

評価指標(成果及び取り組みの状況)

- ・進んで体を動かす、運動の楽しさを味わうとともに、体力を向上させることができている。
- ・食の大切さに気付く、食べ物や食事を作ってくれる人に感謝する心をもつことができている。



マイスクールスポーツの水泳、縄跳びの技能面(運動能力)では、全体的には各学年、少しずつ向上の傾向にある。児童、保護者の方々からも85%以上の肯定的な評価を得ているものの、体力向上の面では、投力、持久力を始め、全体的な底上げが必要である。2学期からは休み時間に縄跳びデー、3学期からは持久走デーを設けるなどして、体力向上への取り組みを行っている。

児童アンケートにおける「給食の時間のマナーは守れていますか」という項目では昨年を上回る91%の児童がAまたはBと回答している。引き続き、栄養士や調理師と連携し、食育に取り組み、全校的に食を大切にす意識を高めていきたい。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケートでは重点目標以外の全ての設問において平均で86%の保護者の方々から「A:十分達成している」「B:達成している」と回答していただいている。また、児童アンケートでは82%の児童が「A:あてはまる・よくできた」「B:まああてはまる・まあできた」という回答をしている。しかしながら、保護者アンケートでは「学校は児童の問題や悩みに対し、適切に相談ののったり、指導したりしている。」など、3つの質問項目では肯定的な評価が80%を下回ってしまった。児童と深い信頼関係を築けるよう、気持ちの変化に気付くことができるよう、日常のコミュニケーションを大切にするとともに、アンケート調査結果の活用や日々、2学年会を行い、担任だけでなく複数の教職員や管理職との情報共有や対応方法の相談など行うようにしている。また、家庭への迅速かつ丁寧な連絡を行い、出来事やそれに対する指導や対応について保護者の方々にご理解、安心いただけるように努めている。

3 今後の改善・方策

【重点目標1】に対して

改善に向け、まずは年度始めに教職員全体で学校のきまりや生活指導の基本について共通理解を図る。日々の2学年会、毎週の生活指導夕会などにより、児童の様子を情報共有したり、対応方法を検討したりすることを年間を通じて継続的に行い、生活指導部を中心として、学校全体で統一した一貫性のある指導ができるよう、組織力を高めていく。「時間を守る」こと、「すすんであいさつをする」ことについては、重点指導項目として、引き続き教職員が範を示していくことや毎学期始めに週目標として取り上げ指導をしたり、高学年児童を中心に取組を行ったりしていく。礼儀正しい言動、思いやりのある言葉とはどういうものか、教え込むのではなく、子どもたちに考えさせる場面を増し、言葉に対する意識を高める。共通の価値観や同じ方向性で対応し、子どもたちの成長を支えていけるように保護者にも協力を求めていく。

【重点目標2】に対して

2人組や3人組の少人数での話し合い活動の経験を様々な教科で積極的に取り入れ積み重ねることで、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることで、互いに考えを深めたり広げたりしようとする意識や技能の高まりが感じられたと教職員は感じている。一方で、保護者の方々や児童の肯定的な評価は8割程度に留まっている。思考ツールやホワイトボードなどを活用し、より話し合いの効果を高めたり、学年の発達段階に応じて家庭学習への取組を工夫したりして児童自身や保護者の方々も児童の変化や成長をより感じることができるようになっていく。

全教員が一人一人の学びの過程を丁寧に見つめ、学習状況を把握・工夫する力をもてるよう、校内外の研修に参加し学んだことを広く共有する機会を設ける。また、学年で互いに授業を見合い指導方法を考えていく中で授業力の向上を目指す。

【重点目標3】に対して

努力・向上した児童の表彰し、児童の意欲喚起を図るなど、今年度取り組んだ縄跳び、持久走の取組をより一層、体力向上につながるように工夫していく。コーディネーショントレーニングを体育の時間の準備運動に取り入れ、継続的に取り組んでいく。各自の運動への取組が十分なのか振り返る工夫も行って いく。

【その他】

・児童アンケートにおいて「学校に行くのが楽しいですか。」という問いに対して肯定的な回答をした児童が78%に留まってしまった。「わかる授業、楽しい授業」を実践できるよう、授業力向上に結びつくOJTの実施、区内外の研修への積極的な参加等の取組の充実を図るとともに、次年度開校30周年を迎えるに当たり、PTAと連携し、地域社会で活躍されている方や専門家を講師として招いての特別授業の実施、行事の工夫等により児童相互、児童と保護者、教職員の交流の充実を図っていく。